

予報期間 9月12日から9月18日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 14日は、低気圧が発達しながら千島近海へ進み、低気圧から前線が日本付近へのびる。低気圧から切り離された前線が16日にかけて西日本の日本海沿岸に残る。
- 15日から16日は、低気圧が中国東北区からオホーツク海へ進み、高気圧が朝鮮半島の北から日本の東へ移動する。
- 17日から18日は、気圧の谷が日本海から日本の東へ進み、18日は前線が本州付近を南下する。

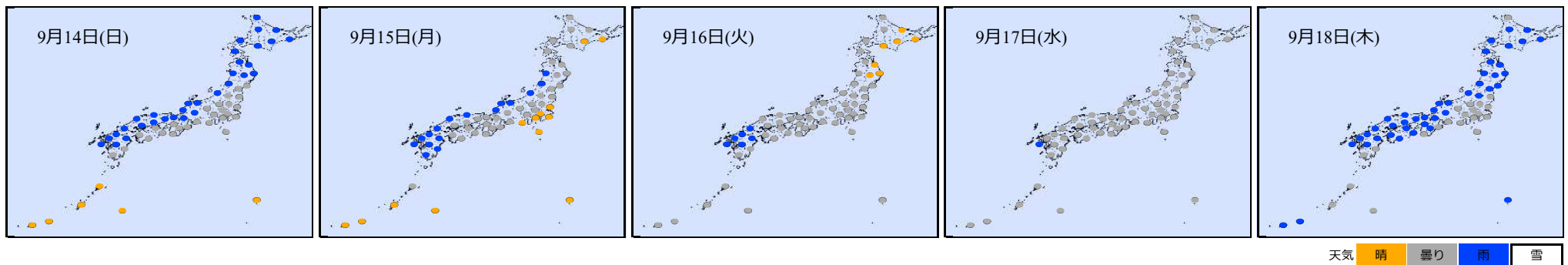
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日頃にかけて、北日本と東日本から西日本の日本海側では低気圧や前線の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。また、低気圧の発達程度等によっては、北日本では大荒れとなるおそれもある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

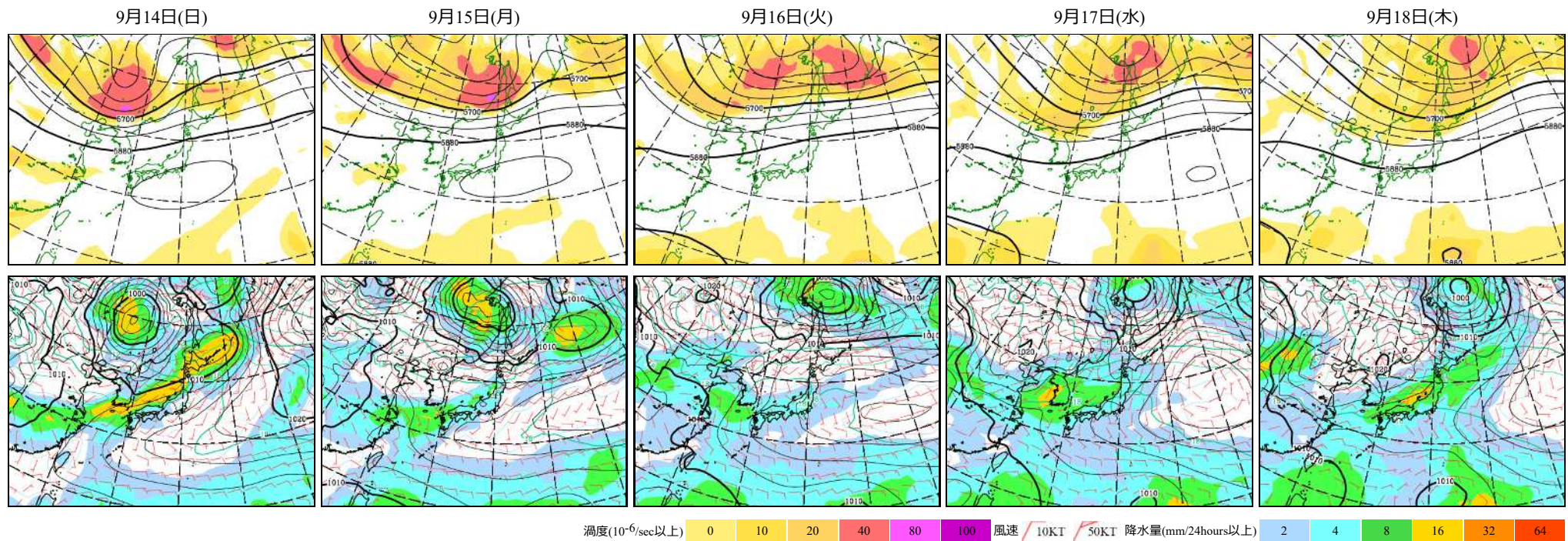
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

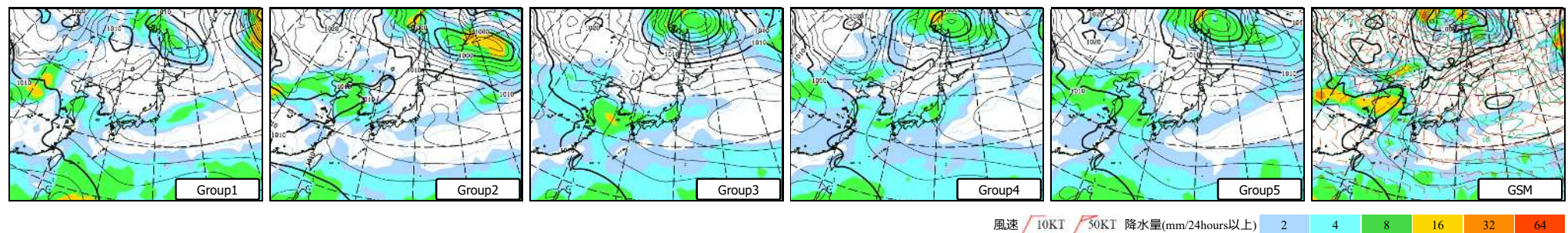


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、15日から16日は晴れる所がある。
- 東日本から西日本の日本海側は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本の太平洋側は、雲が広がりやすく雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、晴れや曇りの日が多いが、18日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月16日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間の終わりに小笠原諸島付近を北上する熱帯じょう乱の予想がなくなった。
- 16日は、前線が東日本の日本海沿岸側付近で不明瞭となり、東日本から北日本の日本海側の降水確率ガイダンスが下がった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は特定高度線のばらつきが見られ、低気圧の位置や勢力にモデル間の違いが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。